

むかいだ
向田遺跡(本発掘調査B)

所在地 安城市東町秋葉下
(北緯34度55分06秒 東経137度05分52秒)

調査理由 中小河川改良事業(一級鹿乗川)

調査期間 令和5年12月

調査面積 55㎡

担当者 堀木真美子・河嶋優輝・池本正明



調査の経過 調査は愛知県建設局河川課による中小河川改良事業(一級河川鹿乗川)に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じた委託事業として実施した。調査面積は55㎡である。本遺跡ではこれまで平成29年度・令和元年度・同4年度に本発掘調査Bを実施し、今回で4度目となる。今年度は令和4年度調査区の北側に隣接する地点で調査を行った。

立地と環境 遺跡は矢作川下流域の鹿乗川左岸の沖積地に立地する。北には鹿乗川流域遺跡群の北群、南には向田遺跡を含む南群が広がり、西方の碧海台地上には桜井古墳群が展開する。今年度調査区の南方で行った平成29年度調査では中近世・古墳時代初頭～前期の2時期の遺構面が確認され、完形の甕が出土する土坑などが確認されているものの、今年度調査区の東に隣接する令和元年度調査区、および南に隣接する令和4年度調査区では遺構が確認されておらず、沼地や河道であったと推測されている。

調査の概要 調査区南半には現代の盛土がなされており、その下には現代の堆積層が確認される。地表面下約0.8m、標高約7.3mで灰色砂質シルトの基盤層が確認され、更に0.1～0.3mほど掘り下げると灰色極細粒砂の堆積が変わる。

地表面から基盤層の間に遺物包含層は確認できなかった。基盤層上面で遺構は検出できず、調査区西側に時期不定の畦畔と思われる堆積が見られるのみである。調査区西側に方形の掘り込み、中央部に隅丸方形の掘り込み2基、東側に深い落ち込みがあったが、プラスチックごみの出土や層序から、全て近現代の攪乱と考えられる。また、基盤層に2m×2mのトレンチを設定し下層確認を行ったが、遺構・遺物は確認できなかった。

遺物は、攪乱土中から土器または土師器および山茶碗、近世陶器の細片が出土した。

まとめ 今年度調査区の範囲では遺構は確認できなかった。基盤層に関しては、遺物が出土しないため時期は不明であるものの、南に隣接する令和4年度調査区と同様、河川による堆積と考えられる。
(河嶋優輝)

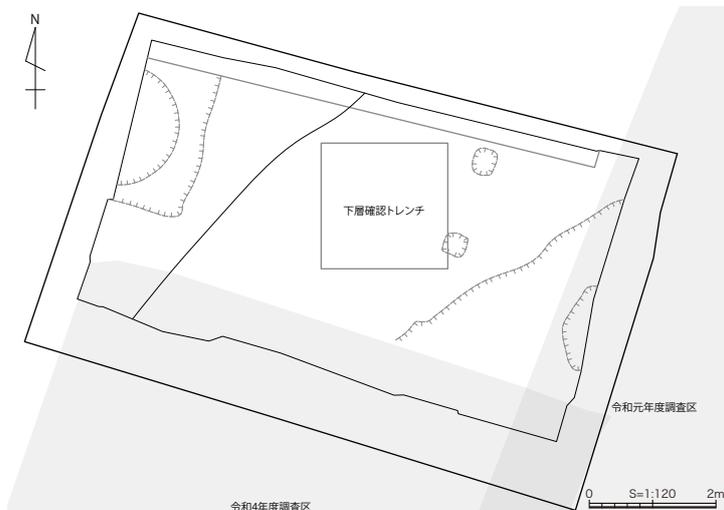


図1 調査区平面図 S=1/120